第 2016-44 号

恵みと真理のニュース

2016 年 10 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ イスラエルよ、あなたはいかに幸いなことか。あなたのように主に救われた民があろうか

イスラエルよ、あなたはいかに幸いなことか。あなたのように主に救われた民があろうか。主はあなたを助ける盾／剣が襲うときのあなたの力。敵はあなたに屈し／あなたは彼らの背を踏みつける。

私はきれいな水が流れる小川があって青い畑がある田舎で生まれ育ちました。豊かではなかったですがそんなに貧しくもなく特に思い出もなく私たちの世代が生きたように平凡な生活をしながら成長しました。
教会は全く関係ないと思って生活しました。誰よりも福音を聴いたり教会に行くように勧められた記憶もなかったです。今、考えてみると遠い所から十字架が見えたのも思いますが、無関心だった当時には教会で鐘が鳴るのも聞こえませんでした。結婚をして私たちの夫婦はイエス様について知らないまま二人の子供を育てながら教会に通わない人のように世の事だけ力を尽くして生きました。たまには大変なことがあると自分の力で乗り越えるため頑張りました。二人の子供が大学に入って卒業して就職するまで忙しく過ごしました。ある日は娘が級に"お母さん、私、付きあっている人いるよ。”としました。瞬間、"もう、そのようになったのかと 歳月の空しさを切実に感じ、いろいろと心配になりました。そして、母として娘の男の友達について知りたいことが多くなり、その家では熱心にイエス様を信じる家庭であることを知りました。するともっと心配になりました。もう娘が婚家の大人に挨拶をしたと聞きました。たぶん、私の家庭もイエス様を信じる家庭だと娘が話したと思います。子供の頃、故郷で共に生活した友達が思いだして話もするため久しぶりに連絡をしました。娘が結婚するけど舅が大きい長老だから心配としました。すると、友達が教会に通う娘によってあなたの家庭も救われると自分の事のように喜んでいました。その後、娘が切に勧めて教会に行くようになりました。聖殿に入った瞬間から恐れて緊張する心と期待する心でいっぱいでした。新世界でした。厳かで温かく感じる礼拝の雰囲気、遠くいる牧師が立っている聖なる講壇、天使が歌うような聖歌隊の賛美は心を響く感動がありました。
そして、一週間が早く過ぎて期待する心で礼拝を待ちました。主に捧げる礼拝ことに御言葉と聖霊の恵みで信仰が成長し喜びあふれるようにしてくださいました。教会に行って礼拝の喜びを感じて娘にも話して友達にも自慢して私を呼んでくださった神様の恵みに感謝します。
神様の子供になった幸せで満たされた私は旦那にもこの恵みあるところに来るように強く話して旦那に伝道しました。はじめは 無理やり引きずり出されているようにして聖書用語が理解できないと話した旦那がある日からは聖書を書き始めて礼拝も熱心に捧げました。旦那に聞かなくても聖霊の働きによって御言葉に恵まれ感動を受けたのを知りました。
足りない私を選んでくださり、神様を礼拝をする栄光するように導いてくださった聖霊様の恵みに感謝します。世の中で金銀より変えられない福ある救いのプレゼントを与えてくださった神様の愛に心から出る限りない感謝と賛美を捧げます。今、考えてみると瞬間瞬間神様の助けと導きだと告白します。私の命の道で導いてくださった神様の喜びと栄光のため、小さい信仰が主が願うもっと大きい信仰で成長させるため礼拝と祈って福音を伝える生活に熱心を捧げます。主に呼ばれて天国に召される日まで主がくださった職分を忠誠に担えます。
"あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。”（ヨハネによる福音書15：16）ハレルヤ！

［信仰コラム］ 挑戦に対して大胆に応戦しなさい

"エフライムの人々は武装し、弓を携えたが、戦いの日に引き返した。彼らは神の契約を守らず、...”（詩編 78:9～11）

教会に来て礼拝に参席した人々の中には自ら訪れた場合と他人の導きを受けて来た場合があります。その場合が何であれ、その日から一生の間に信仰生活をしたら夥しい数であるでしょう。しかし、持続的に信仰生活をする人より落伍する人の数がはるかに多いです。そのようになる理由と共に適切な処方について聖書本文を通じて調べてみましょう。
第一、信仰を諦める人々が誰なのかを調べてみます。
キリスト人になろうとして来たが、家族や周囲の人々の拒否と逼迫を恐れて直ちに引き返してしまう人々がいます。一回応戦もせずに恐れによって引き返してしまいます。また、艱難と逼迫を覚悟するが、長く耐えられない人々も存在して相当な時間を耐えながら戦った後に引き返す人々がいます。彼らは挑戦に対して喜んで応戦しますが、艱難と逼迫だけではなくこの世の誘惑まで加わると結局、戦いを諦めて引き返します。
第二、信仰を諦めて引き返す人々に対して私達が切なさを禁じ得ない理由を調べてみます。
本文には"戦争の日"にエフライムの子孫が引き返したという事実をおいて嘆息しました。ヨシュア将軍のような祖先を持つエフライムの子孫が戦争から引き返したから恥ずかしくて不幸なことであります。ヨシュアはイエス様の模型であり陰であります。従って、エフライムの子孫がヨシュアに関連されているように聖徒達はイエス様と不可分の関係にあります。戦争の日に戦って勝利を得るべきであったエフライムの子孫が引き返したように聖徒の身分になって天の城に向いて大胆に前進すべきの人々がこの世とサタンの脅威と攻撃を受ける時に引き返してしまうとしたら恥ずかしくて不幸なことであります。エフライムの子孫は"武装し、弓を携えた"軍人でありました。戦争の日こそ武装したことと弓を使用するすてきな機会の日です。信仰を守るための戦いは神様に向いた信頼と忠誠を表わせてみる良い機会であり、神様の愛と権能を深く体験できる機会で他の人に信仰で行う手本を残す機会になります。
第三、"エフライムの子孫"がなぜ戦争の日に引き返したのかその原因を調べてみます。
一番目の原因は、彼らが神様の言約を守らなかったからだとしました。私達に試しと艱難、誘惑が迫ってくる時、聖書に記録された神様の約束の御言葉を守って固く捕まえるべきです。二番目の原因は、彼らが律法に従うことを拒んだからだとしました。律法は人を縛り付ける鎖や担うべきの重い荷物ではなく、その律法を行う者に向いて神様が責任を持つようにする法であります。神様の法を喜びながら励んで従う人は戦争の日に絶対引き返さず、力強く立って前進します。三番目の原因は、彼らがエホバが行われたことと彼らに見せてくださった奇跡を忘れたからだとしました。エフライムの子孫は過去エジプトから解放されてカナンの地に入るようになる過程で経験した神様の奇跡と施してくださった恵みを忘却して現実の問題だけ見ながら恐れて恨みました。なので戦争の日に逃げてしまいました。数多くの人々が教会に足を踏み込んで引き返してしまいます。彼らはイエス様と共に光栄を受けるためには苦難も受けなければならないことを厭わしく思います。なので試しと艱難、逼迫と戦うべきの時に引き返してしまいます。
信者達は天国に入るその日までは霊的戦争をすることを覚悟すべきであります。サタンが試しと艱難と逼迫を使って信者達を攻撃するからです。神様の約束に対する信頼と律法に対する従いそして、神様が行われた奇跡と施された恵みを想起することは聖徒達が直面する試しと艱難と逼迫を対処していく最上の武装と弓であります。皆さんは、このような武装と弓を積極的に使用して試しと艱難と逼迫の挑戦に対して大胆に応戦してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

いやしの賜物に対する無知と誤解と偏見

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は誰も元気に長く生きるのを願います。 しかし健康は誰も壮語することができないです。遺伝的な要因、細菌感染、環境的な要因、サタンの浸透など健康を失わせる原因が非常に多様であるからです。 病んだ者はなによりも治るのを熱望して、元気な人でも元気な状態をずっと維持するのを願ってやまないです。 このような人生の欲求に対して神様は無視しません。神様は鉱物、動植物、甚だしくはかび類や微生物と光線、放射線までも治療に使われるように措置しておいたし人々がこれを捜し出して使うように知恵をくださいました。 なおかつ驚くべきで感謝した事は人の健康と治癒のために神様が貴重なお言葉を聖書に記録してくださったことと病気のいやしを受けるために祈ればいやしてくださると約束した事実です。 今日はある人々のいやしの賜物に対する無知、誤解、偏見を列挙しながら聖書的な正し観点をよく見ます。

第一は、“神様は私たちを罪から救われる方であって病気をいやす方はない。” と主張する人がいます。

こんな主張が非聖書的というのを明らかにすることは難しくないです。 神様が病んだ者をいやしてくださるという証拠は非常に多くて圧倒的です。 旧約聖書の 出エジプト記の 15 章 26 節に記録されるのを “「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである」” と言いました。 神様が病んだ者を実際にいやした事例が旧約聖書にたくさんあります。そしていやしの賜物に対する約束もたくさんあります。 新約聖書の福音書には病んだ者をいやしたイエス様の行績で一杯です。 私たちの主イエス様の地上で活動は病んだ人をいやすことで始めました。 “イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。”（マタイによる福音書 4:23)、“ 16 夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。”（マタイによる福音書 8:16）としました。イエス様の３年半の公生涯の中に三分二は病んだ者をいやすことに過ごしました。 復活したイエス様は天に昇る直前に彼らに罪の赦しの福音といやしの賜物の福音を続いて伝えなさいと言い付けました。 使徒と初代の教会はイエス様の命令に従順していやしの賜物の使命をよく遂行しました。 その事実が新約聖書あちこちに記録されています。

二番目は、“病んだのが神様の御旨なのかないのか私たちがわからない。神様の御旨によって人が病んだりしでもあるので病んだ者はいやしてくれと言って祈るのではなく神様の思った通りにしてくれと言って祈らなければならない。” その主張する人がいます。

こんな主張する人も病めば病院へ行って薬も飲みます。 それならこんな行動は自分だけではなく医者と薬師まで神様の御旨を逆って行うように処身することになります。 私たちが神様の御旨が分からない時は “もし神様の御旨なら …” あるいは “神様の御旨どおりになるのを願います。” と祈らなければなりません。 しかし病気のいやしのために祈ることは神様の御旨で神様の命令です。 これに対して多くの証拠が聖書にあるので論難の余地がないです。

三番目は、病んだ人は疾病の治癒より肉身の疾病を通じて霊的な変化と進歩のきっかけをしなければならないと主張する人がいます。

こんな人々は肉体の刺のために祈った使徒パウロの体験をお話します。 そのお言葉は コリント人への第二の手紙,12 章にこんなに記録されています。 “そこで、高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは、高慢にならないように、わたしを打つサタンの使なのである。このことについて、わたしは彼を離れ去らせて下さるようにと、三度も主に祈った。ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。”（コリント人への第二の手紙, 12:7～9). ここで肉体の刺が何かは断定しにくいがもしそれが疾病や肉体的な障害や軟弱だと言ってもあくまでも使徒パウロにあった特別な場合で見なければなりません。 私たちが特別な場合を一般化させるエラーを犯してはいけないです。 使徒パウロもいやしの賜物の使役をしました。

四番目は、いやしの賜物の時代は通ったと主張する人がいます。

彼らは言うのを医術が発達されることができなかった時代にはいやしの賜物の恵みが現われたが医術と医薬が大きく発達された今日にはいやしの賜物が必要なくなったと言います。 果して医学の発展は驚異的です。 多くの種類の伝染病がほとんど退治されるとか天然痘のように完全征服されたこともあります。 しかし実際を言わば疾病とのけんかは終りがないです。絶えず変種ウイルスができています。 耐性を持った菌ができています。 そして以前になかった新しい疾病と致命的な伝染病ができています。

五番目は、いやしの賜物のための祈祷をしても治らない場合があるからいやしの賜物のための祈祷をする必要がないという主張をする人がいます。

祈っても治らない場合には神様の光栄を栄えない信者の信仰に損傷を与えるようになると言います。
それでは薬を飲むとか医者の助けを借りても病気が治らない場合がまたあると言って 薬屋と病院を閉鎖しなければならないと言いますか? 私たちは神様のなさる仕事がすべて分かることはできないです。 ただ神様が啓示なさった範囲の中で分かって信じるだけです。 病んだ者は治癒を受けるために祈りなさいと言ったし神様が治癒してくださると言ったから私たちが嬉しく従順しなければなりません。 いやしの賜物の祈祷は無駄ではないです。 祈ればいろいろ有益な現象が生じます。 ① 苦痛が止めます。 ② 化学療法や放射線治療の副作用が減少されるとか除去されます。 ③ 医学的な治療に効力が増加されます。 ④ 病気の進行が中止されます。 ⑤ 急速に癒されたり徐々に癒されたりします。 ⑥ そして人間の理解が及ぶことができない神様の摂理もあります。

今までいやしの賜物に対する無知と誤解と偏見を列挙しながら聖書的な正し観点をよく見ました。

いやしの賜物に対する無知と誤解と偏見は聖書に記録された神様のお言葉を絶対権威の前にひざまずかない理由からできます。聖書に記録されたお言葉をそのまま信じればいやしの賜物の信仰に障害になる誤れた知識と考えがきれいに除去されます。 私たちがいやしの賜物のために積極的に祈らなければならない理由は病気のいやしを受けるためのことだけではなく病気のいやしを受けるようになることによって人々が神様に光栄を帰することになるからです。 イエスがまたカペナウムにお帰りになったとき、家におられるといううわさが立ったので、多くの人々が集まってきて、もはや戸口のあたりまでも、すきまが無いほどになった。そして、イエスは御言を彼らに語っておられた。すると、人々がひとりの中風の者を四人の人に運ばせて、イエスのところに連れてきた。 ところが、群衆のために近寄ることができないので、イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろした。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。ところが、そこに幾人かの律法学者がすわっていて、心の中で論じた、「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」。イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに言い、中風の者にむかって、「あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。すると彼は起きあがり、すぐに床を取りあげて、みんなの前を出て行ったので、一同は大いに驚き、神をあがめて、「こんな事は、まだ一度も見たことがない」と言った。”（マルコによる福音書 2:1-12）

終りに、ヤコブの手紙 5 章 14 節以下に記録されたいやしの賜物に関わる句節をよく見ます。

“あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。”（ヤコブの手紙 5:14）としました。 ここに言及された教会の長老は今日の教会では教役者を意味します。 “信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。”（ヤコブの手紙 5:15）としました。 “だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。”（ヤコブの手紙 5:16）としました。 義人の懇求は力が多いと強い言ったが義人と言うのはイエスキリストを信じて義を得た聖徒を示す言葉です。 だから聖徒は病気のいやしのためにお互いに祈らなければなりません。
聖書に信仰を守って伝えるためにあう苦難は嬉しく甘受しなさいと言ったが疾病は治癒を受けるために祈りなさいと言いました。 イエス様は苦難にあったが病むのはなかったです。 “わたしたちが神に対していだいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。 そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかなえられたことを、知るのである”（ヨハネの第一の手紙, 5:14,15)で記録されています。 神様の御旨は病んだ者がいやされるのです。 皆さん皆が健康といやしの賜物に対する聖書お言葉を固く信じて行うことで病気を予防してまたいやされることの尋常な事になるように願いします。